



新任教授のあいさつ

脳科学を基盤とする脳神経外科学の発展をめざして

琉球大学医学部脳神経外科 教授 石内 勝 吾

初代 六川二郎教授（1975～1997）、2代 吉井與志彦教授（1997～2009）の後を受けて3代目として2009年6月に着任しました。脳科学を基盤とした脳神経外科学の発展を教室の目標に掲げ臨床と研究の双方向性発展をめざした教室運営を行う所存です。

六川先生の業績集の序文に後任の吉井先生との引継ぎに際し「初代の私が試行錯誤しながら歩いた道を左としよう、あなたは右を歩きなさい、三代はそのどこかを歩きましょう。そうすれば四代はどの道がより良いか判断するだろう。それが琉球大学脳神経外科伝統となるはず」と話したとあります。現在の沖縄県の脳神経外科医療はお二人の先生の薫陶をおうけになった方々が担っているといえます。また多数の他大学出身者も県内で活躍されています。これ等の先生方の多くは沖縄県医師会員で医師会分科会の中にある四金会という脳神経外科医の学術集会の会員でもあります。従来から年4回の総会が開催されていましたが、先日県医師会館で世話人会が開かれ公式な学術集会とは別に、2ヶ月に一度、大学と基幹病院で交互に症例検討会を行うことが決まり9月には第一回の検討会が琉球大学脳外科セミナー室で開催され40名以上の先生方が出席されました。今後も会員の皆さんと一致協力して沖縄県の地域医療の向上に貢献した

と思います。車で30分もかからない地域で皆さん活動していますので、調和を崩さず融和しながら医療情報の共有化や治療の選定など患者さんにとって最適な治療ができる環境を維持し沖縄県完結型の医療体制を構築充実にしたいと思います。

教育と研究も大学の担う役割として重要です。

日本のほとんどの大学は数年前に部局化を施行し大学院大学となったわけですが、琉球大学も現在大学院大学に向けて計画が進行中でありま。教室の若い先生方は全員大学院に入りなるべく最短（3年）で博士号を取得できるよう指導しています。科学論文を英語で書ける訓練をしないと世界に向かって情報を発信できません。沖縄県内で行われた治療をまとめて世界に発信することは医療を担う医師の社会的使命と考えます。

また亜熱帯・島嶼環境などその地理的特性から、離島医療は本県の大きな問題であると認識しています。琉球大学医学部も3年前から1学年7名程度の地域枠の学生を受け入れています。彼らが医師として離島での充実した医療ができるよう県や大学や国そして我々がやらねばならぬことはたくさんあると思います。微力ながら全力を尽くす所存ですのでどうか皆様よろしくお願い申し上げます。